

連載 保険ERM基礎講座 《第12回》

不確実性とERM(その3)

有限責任監査法人トーマツ

ディレクター 後藤 茂之

1. リスクの質について

リスク研究の領域に... リスクの量と質の両面がある。近年、ERMにおいては、量的側面の強化が進められた。つまり、確率論、統計学を用いてリスクを計測し、コ...

的アプローチの充実に心が高まっているのも事実である。一方、われわれの価値観も多様化し、リスクに対するアプローチも多様化している。その意味で、リスクの質的側面への留意も必要になってい...

る(注1)。前者は、スケールが甚大なために引き起こされる恐怖感に関連する。後者は、これまで体験したことのないものや得体の知れないものに抱く未知性に関連する。これらのイメージは、客観的なリスク評価とは違った要素を持ち、時代とともに変化しやすい。

この尺度がどのようなものであるかは、中谷内一也がBSE感染を例に挙げて説明している。リスク認知とリスク評価の違いを理解するのには、参考になるので、次に引用する(注2)。

まず恐ろしさ因子について、「国内で初めてBSE感染牛が発見されたとき、多くの消費者が恐ろしいと感じて牛肉を避けた。：一般の人びとのリスク認知としては、BSE感染により発症する新型異型クローンフェルトヤコフ病は死に至る病気であり(致死的で)、治療法はなく(コントロールは困難)、すでにヨーロッパでは大きな被害が出ていて(世界的惨事となり得る)、今後被害が出つづけると予想さ...

2. リスク社会という視点

われわれの生活空間は、経済という限定された領域のみではなく、より広い社会という視点から見る必要がある。なぜなら、特に家計において、保険が対象としてい...

る(注1)。前者は、スケールが甚大なために引き起こされる恐怖感に関連する。後者は、これまで体験したことのないものや得体の知れないものに抱く未知性に関連する。これらのイメージは、客観的なリスク評価とは違った要素を持ち、時代とともに変化しやすい。

この尺度がどのようなものであるかは、中谷内一也がBSE感染を例に挙げて説明している。リスク認知とリスク評価の違いを理解するのには、参考になるので、次に引用する(注2)。

まず恐ろしさ因子について、「国内で初めてBSE感染牛が発見されたとき、多くの消費者が恐ろしいと感じて牛肉を避けた。：一般の人びとのリスク認知としては、BSE感染により発症する新型異型クローンフェルトヤコフ病は死に至る病気であり(致死的で)、治療法はなく(コントロールは困難)、すでにヨーロッパでは大きな被害が出ていて(世界的惨事となり得る)、今後被害が出つづけると予想さ...

3. 非知という概念

ベックは、「現代的リスクは、環境汚染、薬害、コンピュータウイルスなど直接に知覚できないもの(「非知のリスク」)に向かっていく」と指摘している。ニコラス・ルーマンは、豊かな社会では生活の自由さや快適さを確保する欲求が高まり、これが侵されることに対する不安意識から安全・安心に敏感になるという。また、小松丈晃(注4)が説明するよう...

また、ベックによって提起された「非知の概念」もその後さらに整理がなされ、確実な科学的知識にはなっていないもの、また、科学的知識にはなっていないが、どの部分が非知であるかが明らかになっていく。特定化されない非知を区別することによって、科学的知識の限界や盲点を洗い出し、制度的対処の必要性を検討する際の効果的なコミュニケーションの視点を提供している。

また、ベックによって提起された「非知の概念」もその後さらに整理がなされ、確実な科学的知識にはなっていないもの、また、科学的知識にはなっていないが、どの部分が非知であるかが明らかになっていく。特定化されない非知を区別することによって、科学的知識の限界や盲点を洗い出し、制度的対処の必要性を検討する際の効果的なコミュニケーションの視点を提供している。



後藤茂之氏プロフィール

大手損害保険会社および保険持ち株会社にて、企画部長、リスク管理部長を歴任。日本...

保険交渉、合併・経営統合に伴う経営管理体制の構築、海外M&A、保険ERMの構築、グループ内部モデルの高度化、リスクアセスメント、ORSAAプロセス整備に従事。IAIS, Geneva Association, EAIICなどのE...

保険関連パネルに参加。現職にて、ERM高度化関連コンサルに従事。大阪大学経済学部卒業、コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所・客員研究員、中央大学大学院総合政策研究科博士課程修了。博士(総合政策)。

図表 リスクに関する諸概念

Table with 3 columns: 社会学上の分類, 経済学上の分類, リスク認知による分類. Rows include categories like '確実な科学的知識', '特定化される非知', '特定化されない非知'.

人類を脅かすといった新たなリスクが社会に充満していると指摘し、このような社会のことを、「リスク社会(risk society)」と呼んだ。

また、ベックによって提起された「非知の概念」もその後さらに整理がなされ、確実な科学的知識にはなっていないもの、また、科学的知識にはなっていないが、どの部分が非知であるかが明らかになっていく。特定化されない非知を区別することによって、科学的知識の限界や盲点を洗い出し、制度的対処の必要性を検討する際の効果的なコミュニケーションの視点を提供している。

また、ベックによって提起された「非知の概念」もその後さらに整理がなされ、確実な科学的知識にはなっていないもの、また、科学的知識にはなっていないが、どの部分が非知であるかが明らかになっていく。特定化されない非知を区別することによって、科学的知識の限界や盲点を洗い出し、制度的対処の必要性を検討する際の効果的なコミュニケーションの視点を提供している。

4. リスクコミュニケーション

社会に大きく影響を及ぼすリスクに対処する場合、社会的コンセンサスが重要になる。リスクに対する不適切なコミュニケーションは、相互信頼を損ね、求めている相互の価値を毀損(きそん)...

また、ベックによって提起された「非知の概念」もその後さらに整理がなされ、確実な科学的知識にはなっていないもの、また、科学的知識にはなっていないが、どの部分が非知であるかが明らかになっていく。特定化されない非知を区別することによって、科学的知識の限界や盲点を洗い出し、制度的対処の必要性を検討する際の効果的なコミュニケーションの視点を提供している。

◇

(注1) Slowic, P. (1987) "Perception of Risk", Science, Vol. 236

(注2) 中谷内一也 『リスクのモノサシ』2006年、日本放送出版協会、83〜84頁。

(注3) ウルリヒベック 『危険社会―新しい近代への道』東廉、伊藤美登里訳、1998年、法政大学出版局

(注4) 小松丈晃 『リスク論のルーマン』2003年、勁草書房

◆この連載は隔週木曜日に掲載します。